

民主化闘争情報

No. 894
発行 2013年11月11日
日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

11月7日、参議院国土交通委員会が開催され、議題「鉄道運行の安全に関する件」として、JR北海道に関する集中審議が行われた。その中で質問に立った「みんなの党」和田政宗議員が「革マル派浸透問題」に触れ、高橋警察庁警備局長は「JR総連内において革マル派活動家が影響力を行使し得る立場に相当浸透していると認識しており、ご指摘の答弁書（平成22年、平成23年に出された質問主意書に対する答弁書）で述べた見解に変わりはない」と答弁し、JR総連等への革マル派浸透問題に対する安倍政権における考えを明らかにした。

JR北海道問題に関し参議院で集中審議 —JR総連等への革マル派浸透問題にも言及—

和田議員は一連のJR北海道の不祥事・事故の背後要因としての組織問題に触れ、以下のような質疑・答弁が行われた。

(和田議員) 北鉄労は革マル派との関係が報道で取りざたされているが、関係があるのかどうか、政府としてどう認識しているか。

(警備局長) JR北海道労組（北鉄労）と革マル派との関係について鋭意解明に努めているところである。（中略）

(和田議員) 平成22年と23年に出された質問主意書の回答で、政府の公式見解として、北鉄労の上部組織であるJR総連は極左暴力集団である革マル派の活動家が影響力を行使し得る立場に相当浸透していると回答しているが、現在もそうか。

(警備局長) 警察においては、平成8年以降、革マル派の非公然アジト26か所を摘発し、これらのアジトの一部から押収した資料を分析するなどした結果、JR総連内において革マル派活動家が影響力を行使し得る立場に相当浸透していると認識しており、ご指摘の答弁書で述べた見解に変わりはない。（中略）

(和田議員) 先ほど述べた質問主意書では、JR東労組にも革マル派が相当浸透しているとの回答だったが、現在もそうか。

(警備局長) JR東労組にも革マル派が相当浸透していると認識しており、御指摘の答弁書で述べた見解に変わりはない。

革マル派は今年で結成50周年を迎え、機関紙「解放第2257号（2013年2月25日付）」によれば、「わが党は反帝国主義・反スターリン主義を立脚点とし、全世界プロレタリアートの自己解放のためにたたかう革命組織である」とし、革命党としての立場をあらためて明確にしている。JR総連への革マル派浸透問題は、国家治安上の問題のみならず、JR、そしてJR北海道の安全確立にあたっての脅威であることは言うまでもない。

広田一参議院議員（JR連合国会議員懇談会幹事）は JR北海道再生にむけて、JR北労組組合員の声を発信！

一方、11月5日に開催された参議院国土交通委員会では、民主党広田一ネクスト国交大臣が、JR北海道問題に関して、①長期的視野に立った人材育成②修繕費をはじめとする予算配分の見直し③外注業者を含めた業務執行体制の見直し④形骸化した「膝詰め対話」を真に風土改革に資する意思疎通ツールへの改善等を提起し、JR北労組組合員の声を国政に届けた。

JR、そしてJR北海道に革マル派はいらない！

働く者の手でJR北海道の再生を果たそう！